

# 知的障害を有し家族支援が乏しい透析患者への MSW 支援 ～事例を通して～

医療法人衆和会 長崎腎病院

○林田めぐみ, 藤原久子, 小松利恵子, 原 健二, 藤原靖子, 原田孝司,  
船越 哲

## 【はじめに】

知的障害を有する患者の透析導入・通院は、患者自身の病識や理解力が低いため、良好な社会環境を整えることが困難である。今回は家族支援が乏しい患者で、透析導入後に知的障害ゆえの周辺問題が加わったことで生活や通院に支障をきたし、MSW が支援を行った自験例を報告し、考察する。

## 【症例】

①母子で知的障害を有し生活困窮に陥った患者の支援。②多発性脳梗塞により通院困難となった患者の支援。③知的障害のため導入期の各種申請ができていなかった患者の支援 について報告する。

## 【まとめ】

知的障害を有する患者とその家族の支援に際しては、まずキーパーソンの設定がポイントと考える。家族・縁者がいない場合には生保のケースワーカーや担当ケアマネージャーが代行することとなるが、第一に代行者の法的保護を十分考慮し、次に透析導入時点で患者の詳細な障害程度を把握することが重要と考える。また、医療・行政・福祉関連間の意識・方向性の統一が、治療やケアにより良い形で反映されると思われる。